

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	「ゆっくり自然にあったかホーム、笑顔、笑顔、そして笑顔」を理念として掲げており、開かれたホームを目指している。		「その人らしく生きるとは」を会議で話し合い、できる事を見つけ、して頂く、「生きがい」や「自身」を持って、できるだけ自分の事は自分でできる様支援していく事を行っている。
2 理念の共有と日々の取組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	毎月の会議の時には、理念に基づいて、話し合いをしている。		
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	運営推進会議には、町内会の人や家族にも参加して頂き、ホームの理念をお話させて頂いている。又、毎月発行しているお便りにてお知らせしている。		まだまだ十分とは言えていないので、地域との交流を深めていきたいと思っている。
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	畑作りをする事により、隣近所の人とお話したり、時には分け合ったりと交流を深めている。		より気軽に訪問して頂けるよう取り組んでいきたい。
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	夏祭りの参加や、町内の清掃日に参加し、地域の方と一緒にゴミステーションの清掃等をし、交流に努めている。		敬老の日には、町内会の人にも参加して頂いているので、これからも声かけしていくと共に、開かれたホームにしていきたい。
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	町内会を通じて老人クラブや、地域の高齢者との交流の取り組みを日々職員と話し合っているが、現実には難しい状況である。		難しいことをするのではなく、まずできる事から始めたいと思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>		<p>自己評価、及び、外部評価の改善すべき点を重視し、速やかに改善していきたいと思っている。</p>
8	<p>運営推進介護を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>		<p>レク等に参加された利用者さんに、感想を述べる場を作り、推進会議に出席された家族の方にも、率直な意見が言える様に工夫していく。</p>
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		<p>役所の担当者や、又、包括支援センターの担当者ともっとも気軽に意見交換できるよう考えていきたい。</p>
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>		<p>今年、利用者1名、成年後見制度の申請をし、すでに活用している。</p>
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>		<p>虐待防止を徹底して取り組んでいきたい。</p>
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		<p>何が疑問か、何が不安か、十分な説明を聞き、職員間で解決策を見出し、適切に対応していきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日々、コミュニケーションをとる中で、気軽に云える環境、関係作りをしている。又、利用者の様子から読み取れる様、日々職員間で話し合いをしている。</p>		
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>	<p>毎月発行している「しらかば便り」で様子をお知らせしている。健康面では、特変あった場合は、家族に電話連絡をしている。毎月、領収書を添えて金銭管理出納票を郵送している。</p>		<p>レク等でとった写真をお便りに載せているが、今後個別にアルバムを作って、誕生日にプレゼントするような事と考えている。</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>家族が来所された時には、利用者の様子をお伝えすると、同時に家族の気持ち可言える雰囲気作りにつけている。話された内容については、全体会議で検討したり、送りノートで確認しあっている。</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議の中で、意見交換をしている。又、職員用のノートを作り、日々意見を出してもらっている。</p>		<p>日常業務の中で、職員が気軽に管理者や運営者に意見や気のついた事を言えるような空気を作っていきたい。</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>病院への付添いや、レクに合わせて勤務の調整を図っている。</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>職員が働きやすい環境にするべく努力しており、離職の際には、混乱のない様、説明し、配慮している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>段階に応じた内容の研修、講習への参加機会を設けている。研修者には、会議で発表してもらい、内容をレポートにまとめて、いつでも閲覧できるようにしている。</p>	<p>月1度の会議時には、テーマを決めて勉強会を行っている。これからもスキルアップの為、研修会に参加していく様体制を整えたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>連絡会があり、研修等で交流する機会がある。</p>	<p>新人が多い為、まだまだ交流は少ないので、これからサービスの質の向上の為、交流をとる機会を増やしていきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>気軽に相談、悩み等に応えられるようにしている。</p>	<p>職員は気軽に有給等をとれる環境を整えている。</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>勤務状態を把握し、各自が向上心をもって働けるように、研修等に参加できるように努めている。</p>	
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>入居前に、よく話を聴き、安心した気持ちで入居できるようにしている。又、常に明るく接し、心を開ける様努力している。</p>	<p>入居初期には、他の利用者との関係がスムーズに行くよう工夫している。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受け止める努力をしている。</p>	<p>家族の悩み、不安な点を聴き、時には来所して頂き、十分に話をし、又、その内容を職員に浸透させている。</p>	<p>家族の話し合いを十分に聞き、職員間で話し合い、まず何ができるかを見極め、できることからやっていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の出来る事とできない事を見極め、どの様に支援していくかを検討し、対応している。		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	環境の変化に少しでも馴染めるよう、センター方式を使って、情報収集を十分にし、興味のある事、今までしてきた事が継続できるように工夫している。		馴染むまで、なるべく面会の機会を増やして頂ける様、家族にお願いしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	掃除や食事作りを一緒にしている。従来より、さらに一歩進んで、調理もして頂き、利用者から学んでいる関係を作っている。		「ホームが自分の住まい」になるべく利用者が主体となるように、更に生活面全体の見直しを図る。体調不良の時は、精神面からも支え、本人の思いに耳を傾けている。
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	日々の様子をお便りにて毎月お知らせし、面会の際にも家族の思いなども聞き、一緒に支えていく様にしている。		面会の際には、居室だけではなく、居間で一緒に過ごしてもらったりして、家族の方にもホームでの様子を見て頂く。
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	利用者と家族の立場を理解し、各々が良い関係が築けるよう努めている。		
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	昔の知り合いや、友達が面会に来た際、又、来所いただける様な環境作りをしている。昔住んでいた所、仕事で通っていた所へドライブに行ったりと工夫している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	食事作りで主体的にやってもらう事により、利用者同士で話し合い、協力しあう様になってきている。		縫い物の好きな人には、利用者の裾直しなどをして頂き、その結果、みんなが支え合えるようになってきている。
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後も、家族から相談を受けたり、話をしたりしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望、意向を聴き取り、確認、把握に努めている。又、家族からも情報を得るようにしている。		本人が困難な場合は家族に詳しく話を聞き、対応できるようにしたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントシートを活用し、把握に努めている。モニタリングを行い、細やかな経過の把握に努めている。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	毎日会話し、寄り添い、見守りの中で、気づき、又、それを毎日の送りで、職員同士意見を出し合って把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族の意向を重んじて、モニタリングをしながら、全員でカンファレンスを実施し、ケアプランを作成している。		「その人らしく生きること」「生きがいを取り戻す手助け」ができるように、更に学び検討を重ねていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	ケアプランと照らし合わせて、状況、ニーズ、サービス提供がずれていないか検討し、見直しが必要な時は、本人、家族とも話し合い、適宜見直しを図っている。		ケアマネージャーを中心にモニタリングを行い、職員で話し合い、見直すべき所は見直し、介護計画を作成している。
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに生かしている。	個別の記録を基に話し合い、ケアプラン見直しに生かす様にしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	通院や、日々の変化する状況に応じ、臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議には、地域の民生委員、福祉部長さんに参加してもらい、協力を得ている。		敬老の日のお祝いにも参加して頂き、交流を図っている。
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望に応じ、理美容室に出かけたり、音楽会等に出かけたり、希望によって、他のサービス事業所との利用にも相談にのっている。		他のグループホームや、その他機関等とも交流を深めていきたい。
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員に参加して頂き、協力関係を構築している。		敬老の日のお祝いにも声かけし、ホームとしての取り組みなどを見て頂き、意見交換をしていく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>43 かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>協力医院の医師による往診や、馴染みの看護師の医療連携による看護等で、24時間体制の支援をしている。</p>		
<p>44 認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	<p>協力医院の医師の紹介等で、必要な医療機関や、認知症の専門医等の治療を受けられるよう支援している。</p>		<p>職員一人ひとりが、より認知症に対する理解を深められるよう、研修等を充実させていきたい。</p>
<p>45 看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	<p>事業所内で看護職員は置いていないが、医療連携による看護師が24時間体制で対応している。</p>		
<p>46 早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	<p>利用者が入院した時には、できるだけ面会に行き、その都度、病院関係者と連絡をとり、早期退院に向け努力している。</p>		
<p>47 重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>主治医と綿密な話し合いをもち、重度化した場合の基本方針をもとに、家族と繰り返し話し合いをもち、職員同士で共有しながらケアするよう努力している。</p>		<p>主治医と家族と、ホームとの連携体制を、より充実したものにしていきたいと思っている。</p>
<p>48 重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	<p>主治医の意見の下、家族の理解を得、ホーム内で、出来ること、出来ないことを見極め、職員同士の共通の意識をもち、本人の不安をできるだけ取り除くよう努力している。</p>		<p>ホームとして、全体のケアの質を上げ、重度化や、終末期にも冷静に対応できるような体制作りに取り組んでいきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	関係者と綿密な情報交換を行い、本人の不安を出来るだけ取り払う支援をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	個人情報保護法を遵守し、尊厳をもって生活してもらい、出来ないところを支援していくよう心がけている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	分かりやすい言葉で説明し、出来るだけ自分で決めてもらい、出来ないところを支援していくよう心がけている。		利用者の希望等、まだまだ十分ではないところも見られるので、細かな点も配慮しながら支援していきたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	昼寝をしたり、買い物に行ったり、その日の本人の希望にできるだけ沿うよう支援している。		希望通りできないこともあり、できるだけ改善していきたいと思っている。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、利用・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	化粧をしたり、髭を剃ったり、本人の希望により、お手伝いをしたり、又、理容・美容へは、本人の望む店へと付き添っている。		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしているか。	時には、食べたいものの希望を聞き、一緒に食事を作ったり、後でみんなで感想を言い合ったりと、和気あいあいの空気を保つよう努力している。		外食等の希望がある場合は、必ずしも十分ではないので、体制等を考慮して、出来る限り配慮していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	本人の希望により、おやつ、タバコ等、一人ひとりに合わせて楽しんでもらっている。		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	個々の排泄パターンを把握し、さりげなく対応し、トイレ誘導を行っている。極力オムツをせず、トイレでの排泄を支援している。		夜間も極力おむつをせず、声掛けをし、トイレでの排泄を促している。
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	完全に時間を決めずに、できるだけ本人の状態や、希望に合わせて入浴してもらうようにしている。		夜間の入浴について、職員一人ひとりの意見がまとまらず、課題である。
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	いつでも好きな時間に昼寝をしたり、休んだりしてもらっている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの能力に応じ、食事作り、裁縫、掃除等、生活に張りを持ってもらうよう心がけている。		特定の人だけではなく、できるだけ多くの、その人に合った能力を見出し、張り合いを持たせるべく支援していきたい。
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	能力に応じ、買い物の際は、自分で管理してもらい、大切さを理解してもらっている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	レクリエーションの他、2、3人での外出や、一人でも散歩や買い物等、できるだけ希望に沿うよう支援している。		外出が好きな利用者が多い為、全員が満足していない部分もある。できるだけこまめに対応していきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが言ってみたい普段はいけないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	動物園や、大きな公園、又、大型スーパー等、普段行けない所へも希望があれば行くように支援している。		家族との一緒の外出があまり多くない為、家族とコミュニケーションを取りながらの外出を増やしていきたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	希望によって、手紙を書くのを手伝ったり、家族への電話を取り次いだりと支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の限定はないので、いつでも気軽に訪問してもらえるようになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	基本的には緊急時以外は身体不拘束の原則でケアしている。		職員一人ひとりが、身体拘束について、認識を深めるよう、研修等充実していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室、玄関等は、日中は鍵をかけず、気軽に出入りできるよう配慮している。		出入りが自由なため、職員一人ひとりが、より利用者に対して気配り、目配りに注意して、日常業務を行うよう徹底していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	定期的に居室の見回りをし、(居室への入室はロックをする)トイレや、立ち上がり等にも気をつけており、常に所在の確認をしながら行動をする。		居間に利用者が8人くらいいる時もあり、そういう時は全員に目が行き届かない場合もあり、職員同士、声がけをするなり配慮していきたい。
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	日常的に使う危険な物品などは、置く場所を変えるなり、配慮している。		危険な物かどうか理解できない利用者には、近づいた時は目を離さないよう常に注意していきたい。
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	特に気をつけなければならない人等、一人ひとりの状態に合わせて、転倒等事故改善防止に気をつけている。		忙しい中でも、気配り、目配りを徹底していきたい。
70 急変や自己発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	急変や、事故発生時に備えて、定期的に緊急救命講習を受け、又、日常のカンファレンスの中で、研修している。		どんな時でも冷静に対応できるよう繰り返し研修していきたい。
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	防火管理者の下で、定期的に避難訓練を行い、いざという時に備えている。		今後、町内会との連携を密にして行きたいと思っている。
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている。	家族が面会にきた時等、できるだけコミュニケーションをとり、現在の状態、又、これから起こりうるリスク等について話し合っている。		家族の方とのコミュニケーションをもっと、時間をとって持ちたい。又、あまりに来られない家族とも、いかにコミュニケーションをとるか課題である。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	職員一人ひとりが、常に利用者の状態の変化に気をつけ、いざという時には、協力病院の医師と連携をとり、家族に連絡し、適切に対応できる様になっている。		食中毒等についてのホーム内での職員研修をもっと徹底していきたい。
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	職員一人ひとりが利用者の薬について理解しており、又、日常的な送りや打ち合わせで確認している。		より深い薬の理解を得るべく、職員の研修等を充実していきたい。
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因や影響、又、予防について、各職員は日常の業務の中で、お互い確認し合い、対応について話し合っている。		便秘についての理解はまだ不十分であると思われる。職員の社内研修等で徹底していきたい。
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	食事後は必ず歯磨きをし、気をつけている。又、隣に歯医者があるので、必要とあらば行っている。		口腔についても、まだ十分な理解があるとは言えないので、社内研修等で徹底していきたい。
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	バランスのとれた食事を心がけている。また水分は一人ひとり十分とれているか気をつけている。又、果物等でも対応している。		個々の職員の間でも、利用者一人ひとりの見る目に差がある為、全員が適切に対応できるよう徹底していきたい。
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症のマニュアルがあり、定期的に内部研修等を行って、勉強している。		感染症の理解としては、まだまだ不十分であると思われる。研修等で理解を深めていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所等は常に清潔を保つよう心がけ、食材等も新鮮なものを使うよう心がけている。		食中毒等についてのホーム内での職員研修をもっと徹底していきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関先はなるべく広く、あまり物を置かないように気をつけ、季節の花等を小さな花壇ではあるが植えている。又、鉢植等も置いて、親しみやすく、入りやすいよう工夫している。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活観や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間、台所、廊下等、あまり高い物を置かないよう気をつけ、浴室、トイレ等はなるべく広く使えるよう工夫し、日中の日差しを浴び、ゆったりとした感じである。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室、居間、食堂の他に、一階に談話室があり、テレビもあり、ゆったりと自分の時間が過ごせる空間がある。		
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	あまり広くはない居室なのだが、その中でもできるだけ広く使えるよう工夫し、本人の馴染みの物を置き、また本人の希望に合わせて、時々模様替えをして、できるだけ快適に過ごしてもらえるように気をつけている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	湿度計を置き、注意しながら窓の開閉を行い、又、臭い、騒音等にも気を配っている。		その時々体調が一人ひとり違うため、単純に気温の高さで判断できない場面もあり、職員の理解を徹底させたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>各居室はあまり物を置かないで、広く使えるよう工夫し、又、1階ホールの共同部分には、平行棒を置いてリハビリの為に利用している。</p>	<p>廊下の手すりや1Fホールの平行棒などで、全員が日常的にリハビリをやってもらえるよう取組んで生きたい。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>一人ひとり出来ることをやってもらえるよう、食事作りや洗濯物干しや後片付けなどをお願いしながら協力してもらっている。</p>	<p>今は一部の人のみに限られているが、なるべく多くの人をお願いして、出来る能力を引き出したいと思っている。</p>
87	<p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>玄関先等でできるだけ花を飾り、こざれいにして、又、中庭等では鉢植えや野木等を栽培している。</p>	<p>鉢植えや野木作りなど、なるべく全員で喜びを共有できるようにしていきたい。</p>

サービスの実績に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない</p> <p>個々の利用者の生活が、全体的に安定しており、日々の生活の中で、それぞれ意見希望など、気軽な会話の中で感じ取る事ができる。</p>
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<p>毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない</p> <p>ほとんどの利用者が過ごす日中の光の射す居間で、職員と一緒にのんびりとテレビを見る時間がある。</p>
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>時間にとらわれることなく、一人ひとりが昼寝をしたり、テレビを見たり、リハビリしたり、思い思いの時間を過ごしている。</p>
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>食事の準備等、又、掃除等、職員が人生の先輩として教えてくれるよう頼むと、まんざらでもないような顔で教えてくれている光景が見られる。</p>
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>全員が100%とまではいかないが、出来るだけ可能な限り希望に沿うようにしている。</p>
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>24時間体制の医療連携があり、いつでも医師があるいは、看護師が来てくれる。</p>
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<p>ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない</p> <p>日常的な規則がないので、生活全般で本人の希望に沿うよう生活してもらっている。</p>
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<p>ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない</p> <p>全員の家族とまではいかないが、少なくとも面会に来て頂いている家族とは信頼関係が出来てくると思う。あまり来られていない家族とも、電話等で、できるだけコミュニケーションをとるようにしている。</p>
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<p>ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない</p> <p>町内の催し物や、音楽会等、聞きに行ったり、時々近所の老人ホームの方が遊びに見える。</p>

サービスの実績に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない	まだまだ十分とはいかないが、運営推進会議のメンバーである福祉部長や、包括支援センターの職員や、又、民生委員などを通じて、広めていきたいとおもっている。
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない	個々の利用者の人柄を理解し、その人の為に、共に何ができるか話し合いながら、日々業務に従事している。
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない	日常生活の中で、意見や希望等が気軽に言える関係にあり、出来る限り希望に沿うよう支援しているので、概ね満足していると思う。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない	ある利用者の家族が、面会時、「満足しています。何も言う事はありません、すべておまかせします」との言葉のように概ね満足していると思う。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

自立するための支援は当然ながらいかに生きる希望を見つけてあげる心のケアができるかに重点をおいている。そのためには、日々、利用者の内言語をさぐりながら幸せな心からの笑顔が見られるよう、コミュニケーションを密にとり職員から元気に明るく接するよう心がけている。